

會 務

第二十卷第三號 昭和九年三月

通 常 總 會

昭和 9 年 2 月 15 日午後 4 時 30 分より東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く。出席會員 101 名。

眞田會長議長席に着き開會を宣し下記の如き昭和 8 年度事業報告並びに收支決算報告に對し出席會員の承認を得たり。

昭 和 8 年 度 事 業 報 告

理 事 眞 田 秀 吉
同 大 河 戸 宗 治
同 米 元 晋 一

昭和 8 年度事業の概要左に報告す。

1. 會 合

昭和 8 年 1 月 20 日午後 5 時より東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く出席會員 103 名にして會長名井九介君議長席に着き事業及決算報告を爲し終つて名井會長の講演ありたり。

昭和 8 年 10 月 11 日午後 5 時より東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會に於て臨時總會を開く出席會員 477 名にして會長眞田秀吉君議長席に着き本會定款及規則改正に關する件並に特定期間中入會金免除に關する件を決議せり。

前記以外本年度中に於ける會合は役員會 14 回、講演會 2 回、座談會 1 回、編輯委員會 12 回なり。

2. 役員改選及職員就任

定款第 12 條に依り會長名井九介君、副會長前川貫一君、常議員池田嘉六君、同春木節郎君、同生野團六君、同田井九一君退任に付前項通常總會に於て改選を行ひ當選したる役員の氏名次の如し。

會 長	眞 田 秀 吉君
副 會 長	米 元 晋 一君
常 議 員	田 中 豐君
同	山 口 昇君
同	田 邊 良 忠君
同	池 原 英 治君
同	黒 田 武 定君
同	神 原 信 一 郎君
同	衣 斐 清 香君
同	内 海 清 温君

昭和 8 年 1 月 27 日規則第 26 條に依り職員の推薦を行ひ次の通り就任せり。

主 事	平 井 喜 久 松君
同	牧 野 雅 樂 之 丞君
編輯委員長	草 間 偉君
編輯委員	青 木 楠 男君
同	岩 澤 忠 恭君
同	久 保 讓君
同	關 信 雄君
同	高 田 清君
同	高 橋 三 郎君
同	中 原 壽 一 郎君
同	沼 田 政 矩君
同	宮 本 武 之 輔君

常議員池原英治君は昭和8年4月死去に付那須章彌君を補選せり、同寛斌治君は同年5月滿洲國に轉任、同來島良亮君は同年9月地方に轉任の爲、常議員に缺員を生じたるも都合に依り定款第13條に依る補選を省略せり。

3. 名譽會員の推舉

昭和8年1月20日の通常總會に於て會員工學博士男爵古市公威君を定款第5條に依り本會名譽會員として推舉せり。

4. 委員會の設置並に委員の依屬及各種委員會の經過

昭和8年1月本學會振興に關する委員會を設置し委員長に大河戸宗治君外委員14名を依屬し同年4月同委員會より學會振興策に關する報告ありたるを以て同月解散せり。

同年5月本學會創立20周年紀念委員會を設置し委員として會員井上秀二君外43名を依屬せり。

同年6月日本標準型鋼調査委員會を設置し委員長に會員大河戸宗治君外委員6名を依屬せり。

同年6月日本工學會工業博物館建設調査委員會本會代表委員として會員井上秀二君を又同會セメント試験方法調査委員會本會選出委員として會員大河戸宗治君、同吉田徳次郎君、同野坂孝忠君を選出せり。

同年同月本會地方委員制度を設け各地に委員270名を依屬せり。その他コンクリート調査會、用語調査會、世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會、土木建築士法案調査委員會、維新以前日本土木史編纂委員會等は引續き調査中なり。

5. 會誌その他の發行

昭和8年中に於て土木學會誌第19卷第1號より第12號迄12冊、第一回國際大堰堤會議論文集2冊並に會員名簿を發行せり。

6. 登記並に申請事項

昭和8年1月20日の通常總會に於ける理事の改選及び資産の總額を金153,020.40圓と變更の件は同年2月6日その登記を了せり。

同年10月11日の臨時總會に於て決議したる本會定款改正認可申請の件は同年11月10日主務大臣の認可ありたり。

7. 寄附金の受領

昭和8年1月27日故准員坂本雅雄君遺族坂本雄吉君より金500圓を本會基金として寄附申出ありたるを以てこれを受領せり。

同年5月故會員川上浩二郎君遺族川上洋一君より金1000圓(國庫債券)を本會基金として寄附申出ありたるを以てこれを受領したり。

8. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第18卷第10號に登載せる會員工學博士鶴見一之君著「沈降速度の理論及實驗」と題する論文に對し昭和7年度第一土木賞牌を贈呈せり。

9. 視察旅行

昭和8年5月6,7日兩日第12回視察旅行として熱海線泉越,丹那の兩隧道工事並びに神奈川,靜岡兩縣下の道路改修工事の視察を行ひ會員112名の参加ありたり。

同年10月28,29兩日第十九回視察旅行として東京府下大島の視察をなし會員30名参加せり。

10. 關西支部事業の概要

昭和8年度中關西支部に於ける會合は大會1回,役員會7回,通俗講演會1回,晚餐會及び座談會3回,土木工學研究會1回,見學會2回,支部創立五年記念事業委員會3回なり。

11. 會員數

昭和8年度中の入會者は會員45名(内准員より轉格したる者7名)准員154名(内學生員より轉格したる者73名)學生員87名,贊助員1名,合計287名にして退會者は會員28名,准員72名,學生員75名,合計175名,死亡者は會員16名,准員8名合計24名なり。

而して昭和8年12月末日に於ける現在數は名譽會員1名,會員1119名,准員1871名,學生員147名,贊助員21名,合計3159名なり。

昭和8年度決算報告

理事 眞田 秀吉
同 大河戸 宗治
同 米 元 晋一

收支計算

収入の部

科 目	金額
會 費	33,394.50
利子及雜收入	7,877.42
入 會 金	450.00
會費一時納付金	120.00

支出の部

事 務 費	18,261.27
會 誌 費	20,588.90
工 學 會 費	200.00

科 目	金額
土木史編纂組入金	4,000.00
小 計	45,841.92
前年度(七年度)繰越金	6,035.96
合 計	51,877.88

臨 時 費	1,463.42
事 業 費	1,501.61
支 部 交 付 金	1,500.00

土木史編纂費	3 304.88	後年度(九年度)へ繰越金	4 937.80
基金に編入金	120.00	合 計	51 877.88
小 計	46 940.08		

基金計算

収入の部

前年度繰越金	138 021.09	基金編入金	120.00
故坂本雅雄君記念基金	500.00	利子収入	5 902.30
故川上浩二郎博士同上	1 000.00	合 計	145 599.64
事業基金編入金	56.25		

支出の部

經常費に組入金	3 131.49	翌年度へ繰越金	138 468.15
土木史編纂費に組入金	4 000.00	合 計	145 599.64

貸借対照表(昭和8年12月31日現在)

貸方の部(負債)

科 目	金 額	科 目	金 額
古市公威 兩博士還暦記念基金	18 972.01	故富田保一郎博士記念基金	591.30
沖野忠雄		故中島銳治博士同上	3 444.05
故白石直治博士記念基金	16 359.76	故太田圓三君同上	2 783.46
故山崎鉉次郎博士同上	1 881.38	故阪本雅雄君同上	505.83
故廣井勇博士土木賞牌記念基金	521.66	故川上浩二郎博士同上	1 012.26
原田貞介博士記念基金	3 351.45	關西支部維持基金	22 000.00
故廣井勇博士還暦記念基金	7 318.34	事業基金	24 108.80
故石黒五十二博士記念基金	7 245.62	基金	19 289.16
故近藤虎五郎博士同上	4 701.48	繰 越 金	14 683.65
故阪田貞明君同上	1 228.16	合 計	153 151.80
故岡崎芳樹博士同上	1 966.09		
小川梅三郎博士還暦記念基金	1 187.31		

借方の部(資産)

科 目	金 額	科 目	金 額
圖書及備品	4 271.06	特別當座預金	4 945.09
保 證 金	400.00	郵便貯金	2 422.02
未 收 入 金	5 074.79	振替貯金	4 203.34
有 價 證 券	93 500.07	當 座 預 金	1 751.11
信 託 預 金	22 000.00	現 金	84.32
定 期 預 金	14 500.00	合 計	153 151.80

財産目録

貸借対照表資産の部と同一に付省略す。

役 員 改 選

次で規則第 15 條に依り選舉せられたる役員改選の結果を下記の通り報告し出席會員の承認を得たり。

投票人員 437 名

會 長 當 選	412 票	久 保 田 敬 一君
次 點	9 票	大 河 戸 宗 治君
同	3 票	前 川 貫 一君

以下略す。

副會長 當 選	416 票	草 間 偉君
次 點	3 票	物 部 長 穗君

以下略す。

常 議 員 當 選	403 票	佐 藤 利 恭君
同 同	402 票	鈴 木 雅 次君
同 同	398 票	金 森 誠 之君
同 同	398 票	河 原 直 文君
同 同	389 票	古 川 淳 三君
同 同	388 票	野 口 寅 之 助君
同 同	382 票	永 田 民 也君
同 同	381 票	池 邊 稻 生君
同 次 點	16 票	宮 本 武 之 輔君
同 同	10 票	藤 井 眞 透君
同 同	10 票	谷 井 陽 之 助君
同 同	9 票	萩 原 俊 一君
同 同	8 票	小 野 基 樹君
同 同	6 票	大 井 上 前 雄君
同 同	6 票	山 崎 匡 輔君

以下略す。

次で眞田會長の挨拶（別項）あり午後 5 時 10 分閉會せり。

講 演

通常總會閉會後午後 5 時 30 分より衆議院議員伊藤仁太郎君の「大久保侯と土木公債」と題する講演あり、引續き有志晚餐會を開催し出席會員 69 名にして午後 8 時 30 分盛會裡に散會せり。

役 員 會

臨時役員會

開催日 昭和9年2月6日

出席者 會長 眞田 秀吉君
 副會長 大河戸 宗治君 同 米元 晋一君
 常議員 那須 章彌君 同 田中 豊君
 主事 平井 喜久松君 主計 牧野 雅樂之丞君

昭和9年度役員選舉投票開票の件

昭和9年1月22日の臨時役員會に於て選任せられたる上記役員會立會の下に1月31日までの投票を開票したる結果下記の通り當選せられたり。

投票人員 437名

會長 當選	412 票	久保 田 敬 一君
次 點	9 票	大河 戸 宗 治君
	3 票	前 川 貫 一君
以下略す。		
副會長 當選	416 票	草 間 偉君
次 點	3 票	物 部 長 穂君
以下略す。		
常議員 當選	408 票	佐 藤 利 恭君
同	402 票	鈴 木 雅 次君
同	398 票	金 森 誠 之君
同	398 票	河 原 直 文君
同	389 票	古 川 淳 三君
同	388 票	野 口 寅 之 助君
同	382 票	永 田 民 也君
同	381 票	池 邊 稻 生君
次 點	16 票	宮 本 武 之 輔君
同	10 票	藤 井 眞 透君
同	10 票	谷 井 陽 之 助君
同	9 票	萩 原 俊 一君
同	8 票	小 野 基 樹君
同	6 票	大 井 上 前 雄君
同	6 票	山 崎 匡 輔君

以下略す。

臨時役員會

開催日 昭和9年2月15日

出席者 會長 眞田 秀吉君 前會長 名井 九介君 中川 吉造君
 古川 阪次 郎君 那波 光雄君
 常議員 田中 豊君 内海 清濑君 竹股 一郎君 山口 昇君
 田邊 良忠君 三浦 七郎君 衣斐 清香君

主 事 平 井 喜 久 松 君 主 計 牧 野 雅 樂 之 丞 君
編 輯 長 草 間 偉 君

昭和 9 年度役員當選報告の件

昭和 9 年 2 月 6 日役員選挙投票を開票したる結果を報告し全員これを承認せり。

第 二 回 役 員 會

開催日 昭和 9 年 2 月 22 日

出席者	新 會 長	久 保 田 敬 一 君	前 會 長	眞 田 秀 吉 君	
	副 會 長	米 元 晋 一 君 (留任)	草 間 偉 君 (新任)		
	前副會長	大 河 戸 宗 治 君			
	常 議 員	田 中 豊 君 (留任)	衣 斐 清 香 君 (留任)	神 原 信 一 郎 君 (留任)	
		田 邊 良 忠 君 (留任)	那 須 章 彌 君 (留任)	河 原 直 文 君 (新任)	
		金 森 誠 之 君 (新任)	佐 藤 利 恭 君 (新任)	野 口 寅 之 助 君 (新任)	
		鈴 木 雅 次 君 (新任)	永 田 民 也 君 (新任)	古 川 淳 三 君 (新任)	
	前常議員	黒 田 武 定 君			
	前主事	平 井 喜 久 松 君	牧 野 雅 樂 之 丞 君		

協 議 事 項

1. 主事, 主計, 編輯長選任の件

主事に古川淳三君, 主計に佐藤利恭君, 編輯長に田中豊君を選任す。

2. 編輯委員依囑の件

編輯委員に永田年君, 龜田素君, 福田武雄君, 星野茂樹君, 野口誠君, 堀越一三君, 末森猛雄君, (以上新任) 青木楠男君, 中原壽一郎君, (以上留任) を依囑することとせり。

3. 20 周年記念事業に関する件

(I) 委員會の決定案即ち土木會館設立に就き協議したる結果會館設立準備委員會を設置しその委員に下記 6 君を依囑し實行に就き調査研究することとす。

委 員 井 上 秀 二 君 近 新 三 郎 君 衣 斐 清 香 君 那 須 章 彌 君
森 井 健 介 君 錢 高 作 太 郎 君

(II) 記念出版物刊行, 記念祝賀會, 記念講演會その他の催を 9 月中に執行することとしその調査研究を田中編輯長に一任す。

4. 講演會開催に関する件

講演會は 4 月中に開催することとしその準備を古川主事に一任す。

5. 見學視察旅行に関する件

見學視察旅行を 3 月中及び 5 月中に行ふこととしその計畫を理事に一任す。

6. 土木學會徽章制定の件

相當優美なる徽章を作製することとしその圖案その他の研究を理事に一任す。

7. 土木建築土法案に関する件

調査委員會の書類に依り次回役員會に於て協議することとせり。

8. 日本工學會用語統一調査會臨時委員依囑の件

コンクリート構造に関する用語選定特別委員会に本會より選出する臨時委員に下記 3 君を依頼することとせり。

宮本武之輔君 阿部美樹志君 川口利雄君

9. 故古市公威君追悼記念事業に関する件

故古市公威君を追憶するため記念事業創設方を日本工學會へ申入ることとす。

10. 入退會に関する件

今井哲君外 10 名を會員に、安倍鎮雄君外 31 名を准員に、淺尾敏夫君外 18 名を學生員として入會を承認し安喰高德君外 123 名の准員を會員に轉格承認せり。

而して昭和 9 年 2 月現在の會員數は 3291 名にして本年 12 月中に於て會員 262 名、學生員 46 名を増し名譽會員 1 名、准員(轉格に依る) 175 名を減じたり。

編輯委員會

第二回編輯委員會

開催日 昭和9年2月12日

出席者 編輯長 草間 偉君

委員 久保 讓君

關 信 雄君

沼田政矩君

宮本武之輔君

協議事項

1. 第20卷第1號所載論說報告に對し討議依頼先を決定す。

水戸國道改良工事報告

會員 工學士 鈴木清一

2. 第20卷第1號所載論說報告並に彙報に對し夫々謝禮の階級及び金額を決定す。

3. 第20卷第2號へ下記を追加す。(事後承認)

彙 報

熱海線泉越隧道改築工事

(瀧 山 養)

參考資料

Poiseuille の法則に関する Hagenbach の補正項

(中 野 稔)

丁抹クライネルベルト海峡の道路鐵道併用橋に就て

(富 田 惠 吉)

4. 第20卷第3號登載論文を下記の通りとす。

論說報告

上水道に於ける二重濾過の實驗的考察

會員 島 崎 孝 彦

中央線急行電車運轉に伴ふ工事に就て

會員 工學士 立 花 次 郎

彙 報

下田港修築工事概要

馬込川(砂防工)改修工事

沼津港修築工事概要

會員 工學士 木村憲七郎

特許抄録

複葉跳上橋中央連結装置, 鐵筋コンクリート基礎杭打施工方法, 杭歴入装置, 廢艦船利用防波堤兼魚槽代用装置, 機械鍍, 吊橋の新月形張網承止及括約装置, 水力に依るコンクリート輸送装置, 基礎柱及堅坑の築造方法, コンクリート杭築造方法。

參考資料

アーチ構造物の静水學的類似性 (岡崎三吉)
 水路の底部及び側壁に於て相異なる粗度係數 (")
 米國に於ける海岸浸蝕作用の調査 (伊藤剛)

5. 第20卷第4號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告

天龍川上流(諏訪湖を含む)改修工事概要 會員 工學士 岩崎雄治

6. 抄譯に關する件

前回より抄譯制度改正に關し議せられたるが今回は實績により種々協議の結果改正することに決定す。

7. 第一土木賞牌の件

昨年第一土木賞牌の意匠變更の議ありしが昭和8年度優秀論文に對しては從來のものを贈呈すること。

維新以前日本土木史編纂委員會

第十六回維新以前日本土木史編纂委員會

開催日 昭和9年2月28日

出席者 委員長 田邊朔郎君
 委員 江澤甚一君 久野直君 小川織三君 茂庭忠次郎君
 那須幸彌君 安藝杏一君 板井申生君 丹治經三君
 伴宜君
 囑託 渡邊俊一君

決議事項

1. 未だ史料の送附なき府縣市に對し催促狀を發すること。
2. 故石橋博士所藏に係る史料の件は名井委員と相談の上決すること。
3. 伊東忠太博士牧彦七博士有働良夫博士所藏史料は各委員に於て必要あらば史料頂戴に參上す可きに付申出を願ふこと。
4. 大阪市より送附の目録は印刷の上配布のこと。
5. 缺席の委員にも議案を送附すること。

配布せし印刷物

議案

昭和8年8月現在以後の資料一覽
 土木學會に集まりし著書中土木の記事目次
 土木一般と目次(郷土誌中より)

参考書目(上野圖書館)

二十周年記念事業委員會

第二回委員會

開催日 昭和9年2月13日

出席者 會長 眞田秀吉君

副會長 米元晋一君

委員 井上秀二君

木津正治君

關 毅君

永田兵三郎君

前川貫一君

内海清温君

黒河内四郎君

錢高作太郎君

野口寅之助君

宮本武之輔君

小川織三君

黒田武定君

丹治經三君

萩原俊一君

名井九介君

大島滿一君

近新三郎君

那須章彌君

平山復二郎君

米山辰夫君

眞田會長より二十周年記念事業として特別委員會の提案に係る會館建設案に依り第一回の委員會を開き審議結果該案を基礎として次回委員會開催迄に慎重研究すること尙各委員に於て名案あれば提出することとして散會したりしが委員近新三郎君より新提案に接したるを以て本日第二回の委員會を開きたる以所を述べ、近委員より提案者として會館設立案の内容及び條件等に就き詳細なる説明をなし各委員よりの質問應答あり、最後に井上委員より本案は頗る結構なる名案と思ふ故に本委員會は本案採用を議決し而して役員會に報告することとして如何と發議し全員これに賛成したるを以て眞田會長より役員會に報告研究することとして議事を終り尙本委員會はこれを以て解散する旨を告げ散會せり。

昭和九年度收支豫算

收 入 の 部

1.	會 費	31 050.00 圓
1.	利子及雜收入	7 600.00
1.	會費一時納付金	360.00
1.	土木史編纂費組入金	4 000.00
	小 計	43 010.00
1.	前年度繰越金	4 937.80
	合 計	47 947.80

支 出 の 部

1.	事 務 費	14 750.00
1.	會 誌 費	21 840.00
1.	工 學 會 費	200.00
1.	臨 時 費	1 000.00
1.	事 業 費	1 800.00

1.	支部交付金	1 500.00
1.	基金に編入金	360.00
1.	土木史編纂費	4 000.00
	小 計	45 450.00
1.	後年度へ繰越金	2 497.80
	合 計	47 947.80
基 金 計 算		
收 入 の 部		
1.	前年度繰越金	137 466.94
1.	基金編入金	360.00
1.	利子収入	5 626.20
	合 計	143 453.14
支 出 の 部		
1.	經常費に組入金	3 140.97
1.	土木史編纂費に組入金	4 000.00
1.	翌年度繰越金	136 312.17
	合 計	143 453.14

其 他 記 事

- 昭和 9 年 2 月 19 日 文部省及び東京府へ昭和 8 年度事業報告並に決算報告書及び會員名簿を提出せり。
- 昭和 9 年 2 月 21 日 理事就任及び基金總額の登記を了す。
- 昭和 9 年 2 月 27 日 土木學會誌第 20 卷第 2 號發行成規の手續を了し 1 月 28 日これを全會員に配布せり。
- 昭和 9 年 2 月中に於て入會及び轉格の手續を了し名簿に登録したる者下記の如し。

會 員

今三井 哲君	岩崎 富久君	大塚 成君	片桐 嘉靖君
龜田 素君	佐藤 忠三郎君	下津 義行君	高月 豊一君
山田 義雄君	渡邊 源一君	森 垣 茂君	

會 員 (准員より會員に轉格したる者)

安食 高德君	青木 美一君	秋山 樵平君	東 良 治君
新井 孫平君	栗田 益吉君	岩田 露市君	井戸川 林造君
伊藤 二郎君	石田 二郎君	稻垣 茂樹君	上野 英治君
氏家 文彌君	上村 博愛君	雅 氷 誠君	上野 正夫君
越前谷 長吉君	太田 秀雄君	尾島 貞治君	小野 澤藤三郎君
太田 哲夫君	小川 勝君	岡崎 保吉君	大野 博君
落合 忠禮君	緒方 長一君	大岡 禮三君	大田 長四郎君
鬼丸 忠男君	金岡 俊雄君	何 壽 祥君	梶浦 正武君
河瀬 元治郎君	片岡 謙君	金子 南瀧君	河内 清彦君

梶山淺次郎君	神村孝太郎君	神谷國繁君	北澤貞吉君
菊池正信君	木本住房君	清川忠雄君	熊谷早之允君
國富忠寬君	雲城廣一君	久保茂君	小岩春治君
小泉重三郎君	小林勇君	駒井重威君	今野隆正君
佐藤眞次君	佐藤信七君	佐藤清治君	猿谷新太郎君
鮫島午吉君	佐藤金太郎君	佐原文一君	櫻木四月彦君
佐藤卯三郎君	白崎雅君	下田尾佐市君	白井一郎君
新郷高一君	鈴木千代藏君	菅原正志君	鈴木清一君
陶山直次郎君	杉戸清君	田村慶雄君	田中寛二氏
瀧淵實烈君	高桑鋼一君	田代隆亮君	辰村國治君
高田貞一君	張公一君	津路嘉越君	津田等君
鶴岡鶴吉君	寺島琢治君	土居丁君	富田龍一郎君
中川順造君	成瀬正成君	中村儋治郎君	長屋眞君
中村一造君	長澤啓三郎君	中間友義君	奈良部龜松君
新見喜三君	新野恒一君	野口誠君	羽賀正義君
林田德雄君	長谷川幸之助君	日岡長明君	廣川靈二郎君
藤江義夫君	福田三七治君	藤村久四郎君	本間左門君
松野團治君	松尾末太郎君	馬島進君	松田亮治君
松本敬次郎君	宮川貞二君	宮田隆一郎君	宮本重一君
森志計理君	森下文作君	守山春市君	榊澤米吉君
山形鑑太郎君	矢賀部狷介君	山口佐一郎君	山川與藏君
米田正文君	李熙駿君	脇田嘉一郎君	古賀亮一君

准 員

安倍鎮雄君	有坂誠喜君	尾上喜晴君	大坪薰美君
岡積滿君	奥山四朗君	北川正勝君	久喜隆太郎君
小泉爲義君	佐々木寛治君	下飯坂武彦君	島木敏君
曾根武夫君	田中一君	高井久壽雄君	辻口淺吉君
富澤進君	中込博君	中崎光太郎君	永淵光次君
成田久雄君	原賀昂君	早川幸次郎君	増田金市君
松澤作馬君	松本喜三郎君	本德壽雄君	諸角誠之助君
渡邊嘉太郎君	犬飼孝夫君	山口直樹君	藤尾殖君

學 生 員

淺尾敏夫君	岩元正君	植草定太郎君	内田孝晴君
遠藤周雄君	大村繁三郎君	岡崎忠一君	川名隆通君
栗原二郎君	久保道雄君	設樂藤雄君	篠原謹爾君
柴田元良君	住友彰君	田邊文治君	福田秀夫君
横井孝一君	渡邊悟君	長尾健一君	

昭和9年2月中に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其他下記の如し。

機械學會誌第37卷第202號

建築と社會第17輯第2號

國立公園第6卷第2號

生産管理2月號

工 政 166 號

美以都2月號

機械學會

日本建築協會

國立公園協會

生産管理社

工 政 會

熱田神宮々廳

三菱電機第 10 卷第 1 號
 帝國學士院紀事第 10 卷第 1 號
 建築雜誌第 48 輯第 581 號
 鋼橋の理論と計算
 工業現勢第 3 卷第 2 號
 業務研究資料第 22 卷第 2 號
 衛生工業協會誌第 8 卷第 1 號
 計量界 2 月號
 日立機械評論第 15 號
 Engineer
 セメント工業 2 月號
 造船協會雜誌第 142 號
 滿洲電氣協會々報第 22 號
 工學院同窓會誌第 36 卷第 2 號
 東京工業大學々報
 メートル法批判
 工事畫報
 港 灣第 12 卷第 2 號
 鑄 物第 6 卷第 2 號
 都市問題第 18 卷第 2 號
 鐵と鋼第 20 卷第 1 號
 工學 No. 234
 セメントコンクリート道路 No. 20 2 冊
 セメント界雜誌第 131 號
 土木施工法 (改版)
 工業化學雜誌 (歐文綴) 第 37 編第 2 冊
 工業化學雜誌第 37 編第 2 冊
 日本建築士第 14 卷第 1 號
 電氣學會雜誌第 547 號
 資源第 3 卷第 3 號
 シビル, エンドアーテクチユア第 12 卷
 鐵道技術第 3 卷第 2 號
 水 道第 9 卷第 2 月號
 日立評論第 17 卷第 2 號
 帝國鐵道協會々報第 35 卷第 2 號
 學報第 3 卷第 2 號
 ニツケル眞鍮トニツケル青銅
 日本鑛業會誌第 50 卷第 586 號
 工學部紀要第 7 卷第 5 號

三菱電機株式會社
 帝國學士院
 建築學會
 コロナ社
 工業大學
 鐵道大臣官房研究所
 衛生工業協會
 日本度量衡協會
 日立評論社
 都市工學社
 セメント工業社
 造船協會
 滿洲電氣協會
 工學院同窓會
 東京工業大學
 尺貫法存續聯盟
 工事畫報社
 港灣協會
 日本鑄物協會
 東京市政調查會
 日本鐵鋼協會
 東京工學社
 日本ポルトランドセメント同業會
 //
 丸善出版部
 工業化學會
 //
 日本建築士會
 電氣學會
 資源局
 シビル社
 鐵道技術社
 橫濱市水道局
 日立評論社
 帝國鐵道協會
 東京工業大學
 日本ニツケル情報局
 日本鑛業會
 京都帝國大學

會 報

第二十卷第三號 昭和九年三月

通 常 總 會

2月15日、本年度通常總會は例年の如く丸の内鐵道協會會館にて開催され、定刻午後5時振鈴を合圖に一同講堂に入り着席を待つて直ちに議事を初む。今回は定款改正後最初の總會であつて議事の 内事務報告豫算 決算の會計報告等は例年の通りであるが役員改選の方法が改正せられたのと總會終了後には伊藤仁太郎氏の講演がある事等で相當各方面から興味を以て期待されてゐる様で、めづらしい顔振れも處々に見えて居つた。

眞田會長先づ登壇、開會を宣すれば次に平井主事より多事多端なりし學會1年を回顧せる諸般の事業報告あり、次で新定款の定むる處に依りて選出されたる今年度新役員の氏名を朗讀し紹介あれば滿場一致拍手を以て新會長、新副會長及び各常議員は決定されたのである。代つて牧野主計登壇會計方面の報告を示せば何れも異議なく承認決定を得た。主事主計よりの報告を終りて眞田會長再び起ち極めて多忙にして且煩雜なる職責を此處に立派に果されて退任せらるゝに當り感慨深き面持にて過去一箇年間を回想せられ極めて謙讓なる次の如き御挨拶があつた。

會 長 挨 拶

會 長 眞 田 秀 吉

私は退任に當りまして一言皆謙に御挨拶を致します。昨年1月の總會に於きまして闔らずも會長の榮職に當選致しまして不肖の私に果して務まるや否やと衷心恐懼致しましたが學會内規上辭任することが出来ませぬので御請け致しました次第でございます、然る所役員諸氏會員諸氏の絶大なる御援助と御指導に依て無事に今日に至りましたことを深く感謝する次第でございます。

昨年は學會振興の爲、定款及び規則の改正を企てました又振興委員會などが出来まして會員の増加を圖り且つ種々の新規事業を興さうといふことも同委員會の決議に基いて實行に移りまして爾來その緒に就いて居りますがこれ等の事は短日月には完了出来ないことでありますから今後皆様の御後援に依りましてこの事が著々行はれるに至ることを希望して居ります。それからこの中には學會20周年の記念事業もあります。これ又色々の事業がありまして例へば講演會とか、會館を設けるとか云ふやうな案もありましてこれ等もその結論には達しかけて居りますが是又慎重審議を要しますので來年必ず行ふか行はれないか會の經濟にも關係致しますから能く能く研究致されまして皆様の御協賛を得て是非實行したいと念じて居る次第でございます。兎角學會とか俱樂部とかの事業は在京の方々には色々便利もあり且つ會合の機會もあります。が地方會員には左様に参りませぬので地方會員にももう少し何か利益のある事をやりたいと思ひます、そう云ふやうな事に對しても皆様の御盡力を願ひたいのであります、どうかこの會を全国的に振興させたいものと私は思ふのであります。

本學會に於ては既に御承知の様に色々の事をやつて居りますが用語調査會なども將に完結せんと致して居ります、會誌などもこの頃は大部分内容が改められまして趣味と實益を兼ねたものになりつつあるのは洵に喜ぶべきことで、編輯擔當の諸君に對して感謝する次第であります。

私の在任1箇年問何等纏つた事も出来ませぬでその職を濟しましたことは衷心慚愧に堪へない次第でございますが皆様の御後援に依りまして大過なく務めたことを此の際重ねて感謝致します。昭和9年度は感々新定款その他新に決定致しました諸事業を實質的に實行する時代になつたのでありますが本當に全國的に土木の唯一の纏まつたる盛大なる學會に相成ることを深く信じて居る次第でございます、これを以て御挨拶と致します。

この1年、例へ時日は長からずとはいへよく學會を指導せられ又定款改正なる大事業を計畫するや何れも職務多忙の中をよく慎重審議又鋭斷を致され以てこの好果を收穫し得た處、今回定款の定む處により任滿ち退任せらるゝに至りたるは眞に名残惜しき感に堪へず吾々は茲に深き感謝の意を表する次第である。と同時に今回別記の新役員諸氏を迎ふるを得たるは、20周年記念事業計畫を控へる今年度の學會にとりて極めて心強くして、學會當今の状況は恰も順風に正に帆を上げたるの感を深くする。

以上の如くして總會事も滞りなく終了せるを以て閉會を宣し少憩の後伊藤氏の講演に移る。演題は「大久保侯と土木公債」。例の調子にて明治維新の先輩連も友人扱ひにてユーモア交りの熱辯を振ひ明治初年土木史の一端を覗ふ好個の講演であつた。その内容は何れ後日會員諸氏に報告する機会があることであらう。滔々たる辯舌1時間半にして終り直ちに有志晚餐會に移るべく食堂に入り新舊會長、新舊副會長を中央にはさみて左右に食卓に就く。晚餐會出席者69名。談笑の中に食事をとる事暫くして米元副會長より眞田前會長の御努力を堪ふる挨拶があり同時に新會長を推戴して今後一層盡力を致される旨述べられ同氏の發言にて新會長のため一同起立乾盃をなす。

これに對して眞田前會長より答禮あり、次に久保田新會長立ち別掲挨拶を折々諸語を交へて述べらる。嘗て本學會創立當時の總會に出席された節當時青年技術者なりし久保田會長は既に故人になられてしまつたが學會の創立者にして初代二代の會長なりし古市、沖野兩先輩の席の間にはさまれて着席せられた事ある由を述べらるゝや、新會長は當時既に會長たるの資格を具備して居られた等との聲さへ聞え極めて饒々たるものであつた。暫くして名井前會長の案にてテーブルスピーチを依頼する人を指名することになり先づ小野諒兄氏指さる。氏は此處十數年來地下鐵に関する研究を續け居られ先の工學大會にもその一端を發表せられたが今回これを實際に應用して、東京地下鐵道と省線新橋驛との連絡道路工事に實施された處極めて好結果なるを以て會員の方々にして興味を持たれる方は是非視察して批評して欲しいと述べて着席せらる。次に井上秀二氏指名せられ、氏は學會の20周年記念事業委員會の委員長として先般來種々調査、協議を重ね來つた處、土木會館の建設が最も適當ならんとの成案を得、既に相當具體的の方針すら付いて來たので役員會へ報告移讓して委員會は解散した。従つて今後役員會の實行委員に依つて考慮される譯であるが折角これならばといふ案を得たのであるから役員會を促進する意味で會員諸氏に報告してをく次第なりと述べらる。次には米山辰夫氏指名され、從來モットーとして來れる不言實行の主義に従つてこの席では何も述べぬが各種の計畫實行の勞は決して惜しまぬ旨を述べられ次に宮永平作氏立つ。多分私の顔が目立つた爲御指名を受けましてと諧謔たつぷりに初め、昨秋の定款改正に關して意見のある處を述べられて着席す。代つて山本新次郎氏立つ、氏は久しく米國の地にありて研讀せられた由にて關係せられる事業上の感想を述べられた。終つて名井氏より自由スピーチを乞はるゝも誰も立たず。暫くありて岡胤信氏の發言の下に土木學會の萬歳を三唱し極めて盛會裡に通常總會を終了した。

 役 員 會

2月15日通常總會の後を受け2月23日に第2回の役員會を開催せられた。

總會後の役員會は新役員の第1回の會合と云ふので新役員は概ね出席せられそれに例年の通り舊役員も出席し久保田會長の挨拶ありて議事に入る。

先づ職員選任報告の件 毎年最初の役員會に於て主事、主計、編輯長を選任する例であるが本年は前以て理事會を開いて選任しこれを役員會に報告して承認を得る事としたのでこの選任は頗る簡単に進捗し會長より別項の通り選任の報告があつて全役員異議なくこれを承認せられた。

然し本日の協議事項はなかなか多いのと夕食の用意も出来たので先づ腹括えをして後に議事を進むる事として一同食卓に就き新舊役員談笑裡に食事を終り、引續いて新役員に眞田前會長、大河戸前副會長を混へ(舊役員主事は退席せられた)議事に移ることとしたその議事の順序により茲に述べて見ると第2項の編輯委員依頼に就ては田中編輯長が詮衡したる委員(別項の通り)を挙げ學歷手腕等を説明し全役員がこれを承認依頼することとした第3項の20周年記念事業に關しては先づ第一に特別委員會並に一般委員會の昨年2月以來の経過を柴原書記長より報告し委員會の決定案である土木會館設立に就き更に柴原書記長よりその内容と條件を委曲説明して審議に入り眞田前會長よりも本役員會に提出するまでに至りたる経緯と委員の努力に就き縷々説明をなし會館の設立に就ては各役員の賛意が多かつた、併し建設費の捻出又は建設後に來たるもの即ち維持費經營等に至りては難色ある様にも思はれたが久保田會長の發意により會館設立準備委員會を設くることとして別項の如く委員6名を挙げ實行に就き實際に即し調査を進むることとす。その他來る9月は本會創立滿20年に當るので9月のよき日をトし祝賀會、講演會、見學旅行等の記念會を催すこととして大に氣勢を挙げその研究、計畫及び準備を田中編輯長に一任することとした。

又3月の工場見學、4月の恒例講演會、5月の恒例視察旅行等の開催に就ても全役員諸君の緊張した意見を交換され結局講演會は古川主事に視察旅行は理事に一任して計畫することとなつた。この外5項目に涉る協議事項に對し別項の如く決定し散會した。

 編 輯 委 員 會

第2回編輯委員會を2月12日開催、從來は毎年初めに編輯委員の變更があつたのであるが昨年定款の改正により總會を2月に開催し役員の改選を行ひ常議員の内より編輯長を選出することとなつた爲に編輯長決定の後に委員の任免を行ふのであるから今回は從來の委員諸君が列席せられた。

議題は會務欄所載の通りであるがその内議案第6及び第7に就てその経過を詳記しやう。

抄譯に關する件 これは前年より委員間及び抄譯擔當者にも色々の意見があつたのである。前回に於てその制度改正の議があつたが今回は實績を基としてその具體案に就き種々協議の結果次の様に改正することとしたのである。

- (1) 抄譯擔當者にして1箇年以上繼續せる場合は年末に相當の謝禮を贈ること。
- (2) 登載せるものに對してはその都度編輯委員會にて謝禮を決定の上贈呈すること。

(3) 以上は昭和9年1月よりこれを施行し昭和8年度責任の分に對しては適用さざること。

第一土木賞牌に関する件 昨年第一土木賞牌の意匠變更の議あり即ち廣井博士を追憶する意味に於て同氏の肖像にして適當の意匠を凝らしたものをと言ふ希望があり調査中であつたがその後「現在のものは先生自ら考案せられたものであるから今これを變更するのは如何か」と云ふ説もあつた。そこで昭和8年度優秀論文に對するものは従來のものを贈呈することとして變更するか否かに就ては後日協議をなすこととした。

維新以前日本土木史編纂委員會

本會は眞田副委員長會議のため缺席されたり田邊委員長出席されしため議案審議され議事修了せり。

累計報告道府縣の前分月迄史料集まりし處 31 箇所資料 70 點、本月迄送附越の處京都府(追加)資料 4 點、宮崎縣資料 8 點、千葉縣資料 5 點、山形縣よりの治水に関する回答 1 點大阪市よりの回答圖書目録 1 點、計 33 箇所、89 點、未回答の處 12 縣にして市の分としては前月迄史料の集まりたる處 34 市、資料 50 點にして今月なし、未回答 61 市なり。各委員貸與史料 103 點これ迄學會に於ける筆寫 690 冊、借入書 37 冊、購買書 10 冊なり。

本土本史編纂委員會の設置せられたるは昭和7年10月にしてそれ以後本學會に寄贈又は貸與せられたる資料は次の如し。

豊橋市水道誌外圖面

篠原孫左衛門

資 料

雄 田 水 路

富士川通天神瀧玄石灘船除大石積

井ノ田川掘割

宇治橋沿革竹野川沿域ノ土木治水

絞平用水

初瀬新井路の來歴

會見郡上後東村由來記等

車石に関する回答

御 土 居

廣 島 水 道

福岡縣瓶川

静岡安部川以東の部

野 中 兼 山

金澤城の水利

報知新聞日曜附録

九頭龍川改修工事概要

印旛沼開墾千鴻平野開拓

利根川治水工事沿革

瀬田川浚渫砂防

安部川以西の分

西 田 橋

愛 知 縣

德島鳴門村長

德島阿波郡久勝村長

同那賀郡延野村長

鷲尾内務技師

靜 岡 縣

京 都 府

德 島 縣

大 分 縣

鳥 取 縣

滋 賀 縣

京 都 府

廣 島 縣

福 岡 縣

靜 岡 縣

高 知 縣

名 井 委 員

眞田副委員長

福 井 縣

千 葉 縣

同

滋 賀 縣

靜 岡 縣

山 田 技 師

小田原城箱根疏水相模川橋脚和賀江築港

日本農學會第四回大會講演及討論集

熊本市史外史料(第二回追加)

土木略史

馳越川現流路の開鑿

洛南地方の道路通運

大井川治水事業

鴨川橋梁木津川のこと

治水に關する照會事項回答

同

同

同水野土手

農具便利論

和漢三歲圖繪

礪 禮 考

宮崎縣土木史編纂資料

越前若狹地方の史蹟

同 古文書撰

山形縣よりの谷地河原堤防に關する回答

江戸時代の科學

上總地方に於ける鎌倉街道

新利根川開鑿及手賀沼

坂川治水沿革

關宿堀の開鑿

常願寺川の記録

高梁川の記録

大多喜水道

大阪市よりの著書目錄

貸與の部

寶曆治水美譚

伊能忠敬の話

本邦土堰高堤

岡山縣水害史上下二冊

砂防工大意

日本最古の閘門に就て

稻毛川崎ニケ領用水事蹟

古書籍在庫目錄日本志篇

偉人野中兼山

利根治水論考

尾張治水史

日本治水史

日本最古の閘門に就て

土木年表 茂庭博士

日本土木史料 渡邊俊一編

神奈川縣

板井技師

熊本縣

福岡市

富山縣

京都府

同

同

高知縣

德島縣

山形縣

廣島縣

購買書

同

同

宮崎縣

三秀舍

同

山形縣

購買書

千葉縣

富山縣

和氣內務技師

同

島委員

眞田副委員長

同

同

同

同

同

同

名井會長

同

同

同

同

同

同

同

稻毛川崎ニケ領用水事蹟	川 崎 市
川 崎 誌 考	同
北海道史第一	北 海 道 廳
開拓使事業報告第二編	同
北海道史附録地圖	同
浮羽偉人五庄屋の治蹟	渡 邊 俊 一
模範最新世界年表	同
日本經濟史文獻目錄	同
猿橋の記録	眞田副委員長
岩國錦帶橋に就て(返送濟)	岩國町役場
錦帶橋沿革	萩 重 哲 三 氏
名勝錦帶橋設計書	同
近世地方經濟史料	眞田副委員長
赤穂城圖	兵 庫 縣
日本産業資料大系(1) (2) (3) (10) (11) 五冊	東京土木出張所
日本時代史十四冊	渡 邊 俊 一
錦帶橋設計圖	茂 庭 委 員
川村孫兵衛(返送濟)	同
北上川開墾家贈正五位川村孫兵衛小傳(返送濟)	同
駿臺の地と御茶の水の堀割(返送濟)	同
以上に關する寫眞三葉	同
川村孫兵衛傳、北上川改修、品井沼疏水(返送濟)	同
四 谷 堰	同
寫眞厚板(寄贈)六枚	兵 庫 縣
同 (返送濟) 十二枚	同
横濱市史稿政治第三篇	横 濱 市
新潟港誌	渡 邊 俊 一
古事類苑政治部地部三冊	帝國鐵道協會
日本財政經濟史料四、八、九 三冊	同
三大川と寶曆薩摩土手	眞田副委員長
用悪水抜路開墾事業	兵 庫 縣
徳田孫四郎に關する寫眞原板大小四枚(返送濟)	同
日本經濟全史 史料編	帝國鐵道協會
日本運送史	同
大阪文化史	同
交通地理學	同
倒叙日本史	同
堤防橋梁積方定則	草間帝國大學教授
宗伯爵手記	同
日本旅行史	那 須 委 員
上代驛制の研究	同
測量術に關する記録	同
寫眞原板五枚	兵 庫 區

2. 工事方法の沿革
直營賦役法 請負法等
 3. 著名技術者及其の生立及遺業
 4. 建築材料の變遷及其の供給法
石灰, 石材, 粘土, 木材
 5. 建築用具の變遷及傳來
附測量器
-